

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
小林大祐・山中千恵・島岡 哉			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
織田 暁子		仁愛大学 人間学部 コミュニケーション学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査演習 b	JNAa-110702-2	11人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

小林班の受講生11名は2つの班に分かれて議論しつつ、自分たちの問題関心を質問の形にして行く作業を進めた。受講生は皆積極的に議論に参加し、授業日以外に行った実査に関連する郵送作業などにも、全員参加してくれた。そのため、実査はほぼ計画通り進捗し、年度内に報告書をまとめることができた。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：
仁愛大学卒業生調査

2. 調査の内容／概要：

重視されたのは、卒業後の生活について、職業生活を中心に捉えること、そして、他大学で実施されている卒業生調査と同じ項目を入れることで、比較を可能とすることであった。特に後者については、金沢大学文学部社会学研究室が2005年に実施した卒業生調査の質問を、ワーディングも含めて用いることにより、一部の質問について比較可能性を担保することが可能となった。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

仁愛大学卒業生すべてが想定母集団であり全数調査を意図している。ただし、事前に依頼状を送り、宛先不明で返送されてきた宛先を除外したため、調査対象者は1379名となった。

4. 主な調査項目：

初職と現職の状況、学生時代の生活全般、学生生活の満足度、学生時代に学んだことで現在役にたっていること、婚姻状態など。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：
郵送法による、質問紙調査。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

2011年8月から10月にかけて実施。調査員は11名。

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

事前に依頼状を送り、宛先不明で返送されてきた宛先を除外した1379名に調査票を送付した後、督促状については1回送付した。その結果得られた回収票は、男女計519票で、発送数を分母とした有効回収率は37.6%となった。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

統計ソフトを用いた計量分析。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

・有職者の比率は8割5分から9割前後で、「無職（仕事を探していない）」の比率は両学科とも女性で多くなっている。これは専業主婦がここに含まれるためである。ただ、「無職（仕事を探している）」すなわち失業状態は、コミュニケーション学科で8.3%とやや多くなっていた。
・離職理由については、男女とも「会社の方針・制度に不満があった」が最も多く、続いて「人間関係に不満があった」が高い値となった（「その他」を除く）。その次に高かったのは、男性では「収入面での不満があった」といった、やはり仕事上の不満による離職理由が上位を占めていたのに対し、女性では「自身の病気・怪我」、そして「結婚・出産」という理由が上位となった。ただし、「自身の病気・怪我」に仕事における肉体的、精神的疲労に由来するものが含まれている可能性も懸念された。
・離職経験者の再就職後の企業規模は、より小規模となる傾向があった。これは、離職することにより、職場環境が相対的に不安定なものとなる危険性を示すと同時に、福井の特徴とも言える中小企業の集積が、転職や再就職の受け皿となっているとも言えるだろう。一方で、官公庁に再就職する者も一定数存在しており、新卒で就職後も公務員志向が残っていることが示された。

10. 報告書刊行の予定と概要：

他の担当者の報告書との合冊で2012年3月に刊行済み。